

事後評価

社会資本整備総合交付金事業

千葉港千葉中央地区

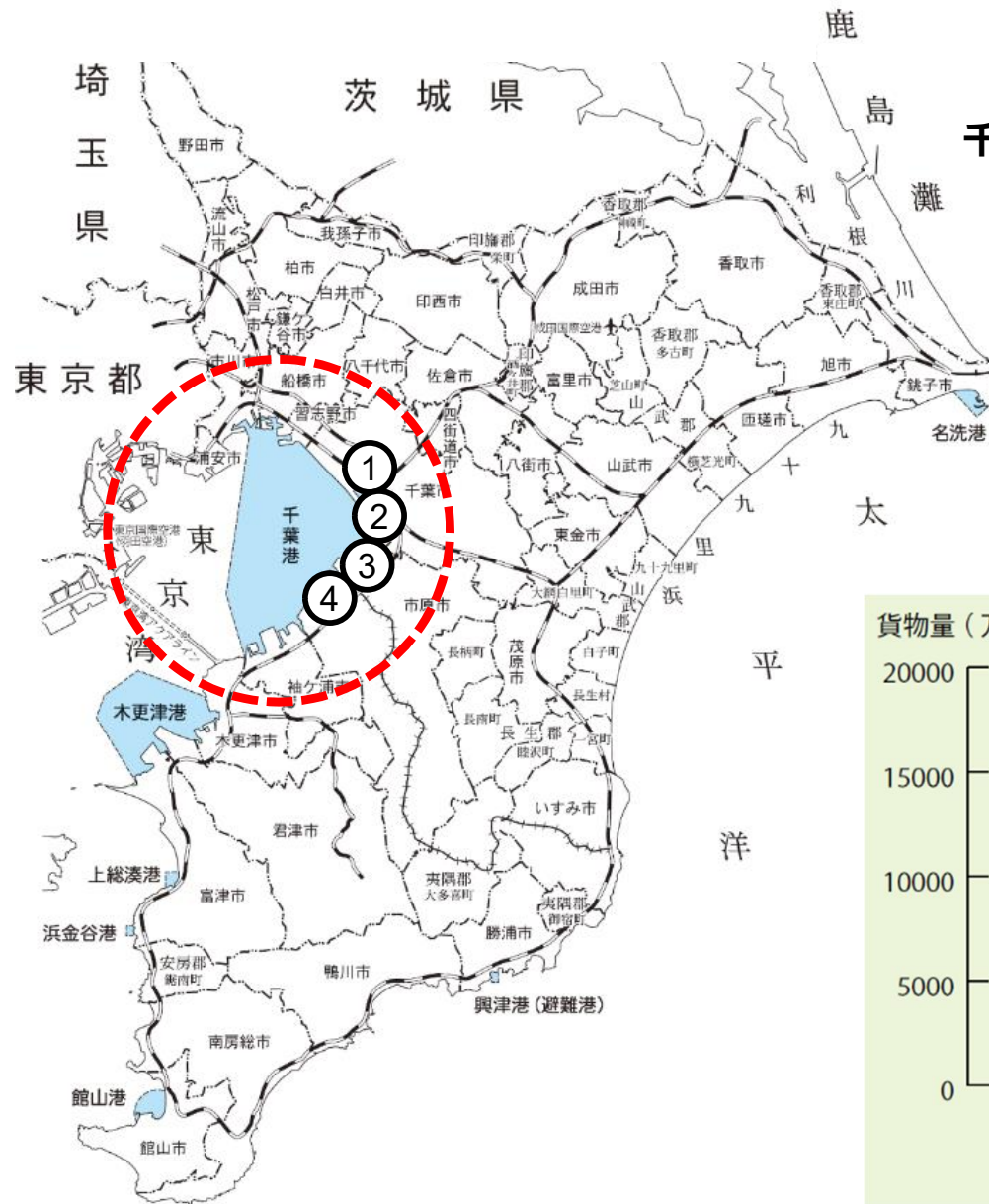
令和5年12月18日

千葉県 県土整備部 港湾課

目 次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性
3. 事業全体の投資効率性(費用便益分析)
4. 事業の効果の発現状況
5. 事業実施による環境の変化
6. 社会経済情勢の変化
7. 今後の事後評価の必要性
8. 改善措置の必要性
9. 同種事業の計画・調査のあり方や
事業評価手法の見直しの必要性
10. まとめ

千葉港の概要



千葉中央地区 千葉中央ふ頭



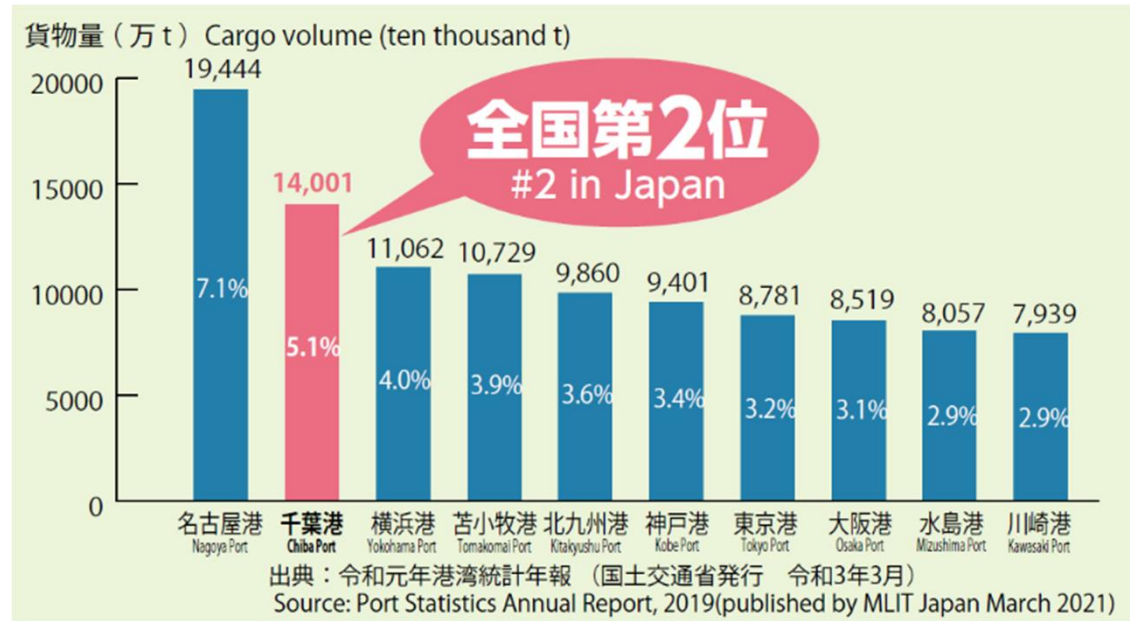
JFEスチール 東日本製鉄所



東京電力 千葉火力発電所



石油化学コンビナート



1. 事業の概要

事業期間:平成17年度～令和2年度

【目的】千葉港の玄関口にふさわしい賑わいのある親水空間を創出

施設名	整備計画
港湾緑地	1.5ha
ふ頭用地	0.1ha
小型栈橋	2基(L=50m)
防波堤	1基(L=80m)
事業費	約47億円



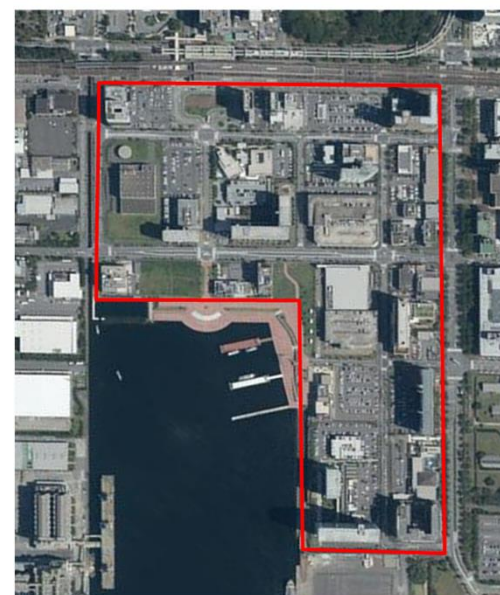
至
ポートタワー
ポートパーク

1. 事業概要(航空写真)

整備前



整備後



1. 事業概要(事業の軌跡)



2. 事業の必要性

2-1 良好な海辺環境の再生

- ・千葉港は臨海部の埋立と企業誘致により工業港として発展
- ・一方で、埋立前に広がっていた県民が海や港に親しめる良好な海辺環境が喪失

2-2 市民の価値観の変化

- ・近年、市民の価値観が物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさも重視する方向へ変化
- ・ウォーターフロントでの余暇活動、海洋性レジャー、景観・環境保全等への関心の高まり

2-3 まちづくりとの調和

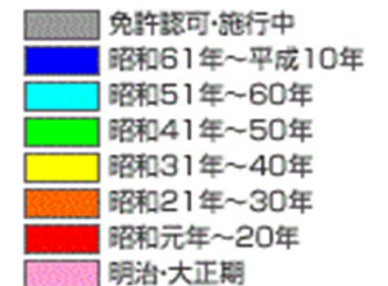
- ・千葉みなと駅前では、UR都市再生機構が土地区画整理事業によるまちづくりを実施
- ・まちづくりと調和した賑わいのあるウォーターフロント空間の創出への期待

千葉市新宿海岸
(昭和37年)



東京湾の年代別
埋立状況

出典:東京湾環境
情報センターHP



3. 事業全体の投資効率性(費用便益分析)

■ 対象範囲及び便益の概要

【交流・レクリエーション便益】

- ・小型栈橋を整備する場合に見込まれる便益
 - ・小型栈橋の整備により、港内遊覧船の乗船者のクルージング機会が増加し、レクリエーション効用が増加
- ⇒ 旅行費用法(TCM)によるアンケート調査で計測

【対象範囲】

- ・小型栈橋
- ・港湾緑地

【利用環境改善便益】

- ・港湾緑地を整備する場合に見込まれる便益
 - ・港湾緑地の整備による、港湾旅客の利用環境の改善効果に対して、受益者の支払意思額から価値を評価
- ⇒ 仮想的市場評価法(CVM)によるアンケート調査で計測

3. 事業全体の投資効率性(費用便益分析)

■費用対効果の算定手順

・「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」
(H29.3)(国土交通省港湾局)

●費用及び便益の算定の前提
基準年次：2023年度(R5)
検討年数：供用後50年間

●総便益の算定

事業の有・無によるコスト等の差が便益

<便益項目>

- ・交流・レクリエーション便益
- ・利用環境改善便益

●総費用の算定

事業費総額
+
維持管理費

社会的割引率
4%

総便益(B)

現在価値化した便益の総和

総費用(C)

現在価値化した費用の総和

費用便益比(B/C)

3. 事業全体の投資効率性(費用便益分析)

表 費用便益比(B/C)の算定結果

便益 (B)	交流・レクリエーション便益	利用環境改善便益	総便益	費用便益比 (B/C) 3.7
	31.7億円 (65.5億円)	278.1億円 (575.5億円)	<u>309.8億円</u> (641.0億円)	
費用 (C)	事業費	維持管理費	総費用	
	82.5億円 (47.8億円)	2.3億円 (4.2億円)	<u>84.8億円</u> (52.0億円)	

※() 社会的割引前の金額

3. 事業全体の投資効率性(費用便益分析)

表 当初評価時との比較

事項	当初	事後	摘要
B総便益 (億円)	260.6 (795.2)	309.8 (641.0)	【当初】 移動便益:0.2億円/年 交流・レクリエーション便益:1.2億円/年 利用環境改善便益15.5億円/年 【事後】 交流・レクリエーション便益:1.3億円/年 利用環境改善便益11.5億円/年
C総費用 (億円)	49.7 (67.6)	84.8 (52.0)	—
B/C	5.2	3.7	—
B-C(億円)	210.9	225.0	—
基準年度	H13	R5	—

※()社会的割引前の金額

4. 事業の効果の発現状況

4-1 親水空間の創出

- 港湾緑地は、千葉みなと駅前の土地区画整理事業と一体となったまちづくりの一翼を担っており、港湾の持つ魅力を活かして、県民が海や港に親しめる親水空間を創出

全 景



旅客ターミナル複合施設



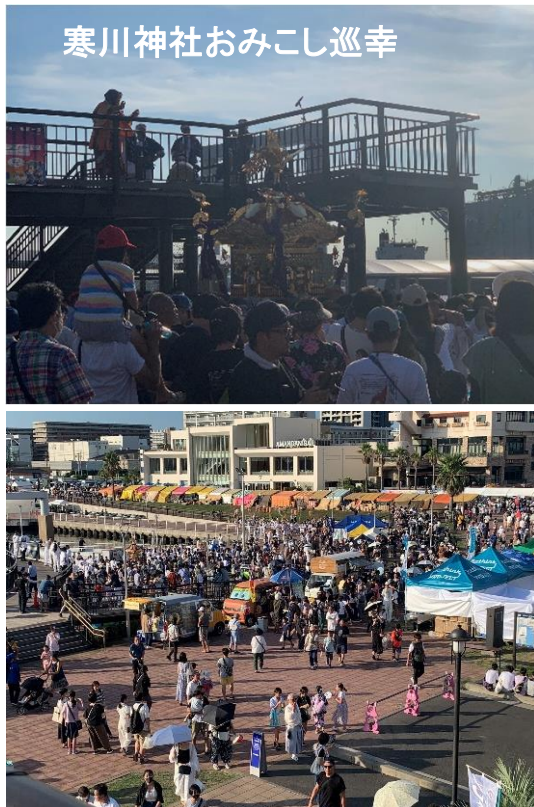
小型栈橋

4. 事業の効果の発現状況

4-2 地域の活性化

- 各種のイベントが開催されており、令和5年8月20日には、地域住民の交流や観光の復興を図ることを目的として「さんばしまつり」が開催される等、千葉みなとの賑わいを創出

【さんばしまつり】



開催時間 10:00~21:00
屋台、キッチンカー、ステージ
水上ナイトショー
寒川神社おみこし巡幸
概算集客人数 約3.2万人
協賛者数 118者

※千葉市提供資料より



4. 事業の効果の発現状況

4-2 地域の活性化(各種イベントの開催状況(抜粋))

- ・フリーマーケット
- ・オータムフェスタ
- ・千葉湊大漁まつり
- ・クリスマスマーケット
- ・ビアフェス
- ・各種販売会
- ・スーパーカー展示イベント
- ・バスケットボールイベント

【フリーマーケット】

年数回開催



【クリスマスマーケット】

約7,000人



【バスケットボールイベント】

約3,000人



【スーパーカー展示イベント】

約2,000人



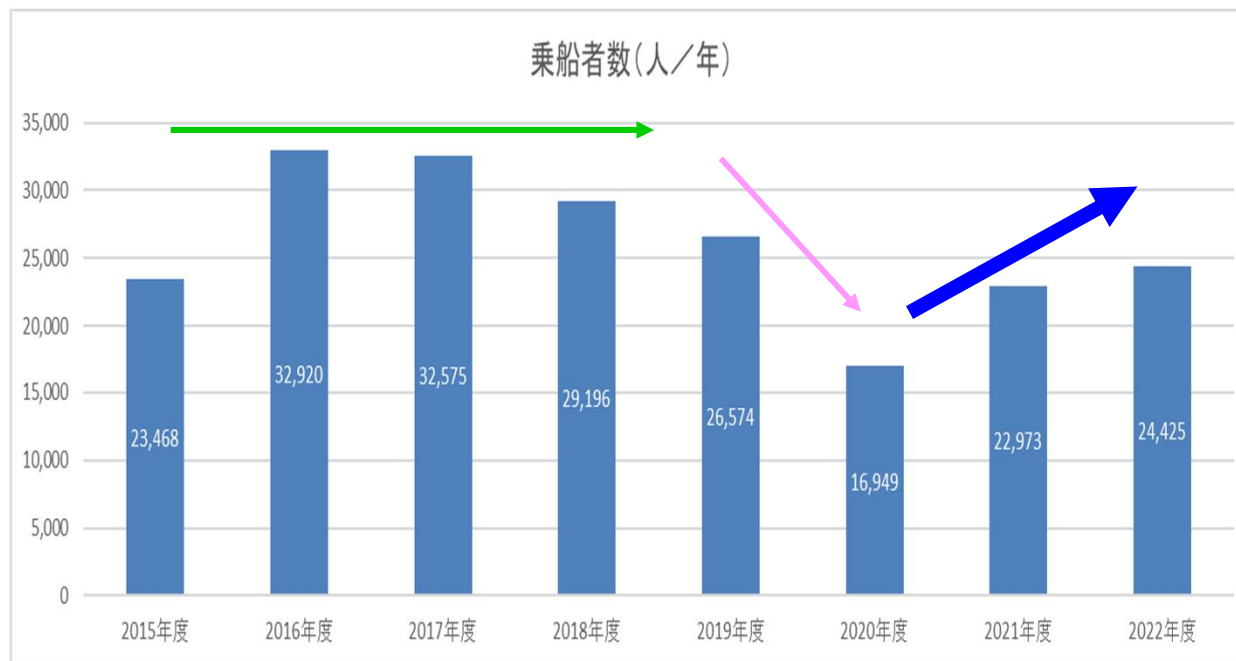
令和4年度イベント開催状況
開催回数 15回
概算集客人数 約9万人

※千葉市提供資料より

4. 事業の効果の発現状況

4-3 湾内遊覧船の乗船者数の増加

- 小型棧橋では、港内遊覧船が運航しており、新たな千葉みなとの魅力を県内外に発信していくことで、更なる地域の活性化が期待できる
- 遊覧船の乗船者数は、減少傾向にあったが、当該事業が完了し、新しい遊覧船の発着棧橋の供用が開始された2021年(令和3年)には、コロナ禍にも関わらず、増加に転じた
- コロナ禍が収束すれば、更なる乗船者数の増加が期待できる



【遊覧船就航状況】



1期施工(2016年4月)で棧橋ができたことで年間約3万人を推移

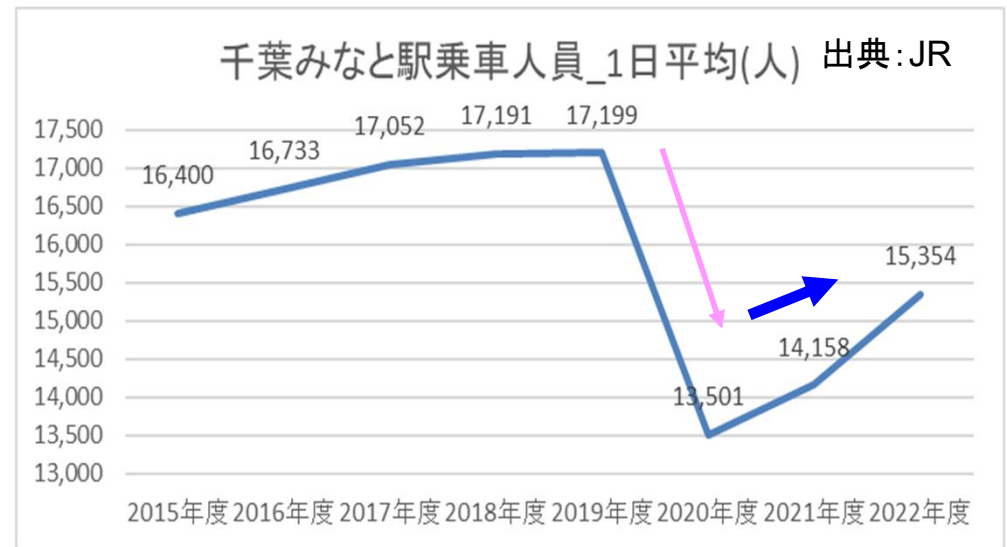
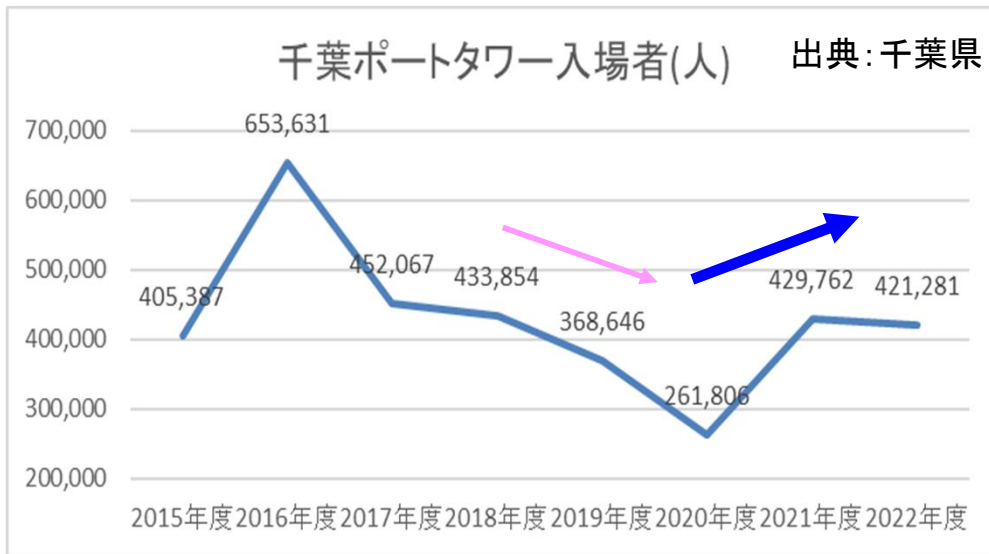
2020年度は、コロナ禍により大幅に減少

2021年度には、新しい棧橋が供用開始されたことで大幅に増加

4. 事業の効果の発現状況

4-4 千葉みなと周辺施設の利用者数の増加

- 千葉ポートタワー入場者数及び、千葉みなと駅乗車人員は、減少傾向にあったが、当該事業が完了し、新しい遊覧船の発着桟橋の供用が開始された2021年(令和3年)には、コロナ禍にも関わらず、増加に転じた
- コロナ禍が収束すれば、更なる利用者数の増加が期待できる



※2016年7月22日からポケモンGOリリース

2020年度は、コロナ禍により大幅に減少

2021年度には、新しい桟橋が供用開始されたことで大幅に増加

5. 事業実施による環境の変化

- 工業用の港から、土地区画整理と一体となった景観に配慮した親水空間が創出された。本事業により整備された棧橋では湾内遊覧船が運航しており、新たな千葉みなとの魅力が創出されたことから、更なる地域の活性化が期待できる
- 生物の生育場所を改変することはなく、埋立により海域の一部が消失したが、周辺には同様な環境が存在することから自然環境への影響は軽微である。

6. 社会経済情勢の変化

- 本事業で整備された緑地は、千葉港の玄関口としてふさわしい良好な景観が整備され、また、各種イベントが開催されており、大きなイベントでは「さんばしまつり」が開催され、来場者数は約3万人に及ぶ等、地域の活性化が図られている。
- 本事業により整備された棧橋では湾内遊覧船が運航しており、新たな千葉みなとの魅力が創出されたことから、更なる地域の活性化が期待できる。

7. 今後の事後評価の必要性

- 本事業の費用対効果(B/C)は3.7と算出され、1.0を大幅に上回っていることから一定の事業効果を発現しており、今後も更なる事業効果が期待できることから、改めて事後評価の必要性は無い

8. 改善措置の必要性

- 事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、今後の改善措置の必要性は無い

9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 現行の事業評価手法は本事業を適切に評価していると考えており、現時点での見直しの必要性は無い

10. まとめ

【対応方針(案)】 対応なし

【理由】事業の投資効果の発現状況が確認されまた、改善措置の必要性がないと判断されるため。